V-9　石巻市釜谷地区釜谷集落　　2012 年 12 月 18 日（火）

報告者名　岡山　卓矢　　被調査者生年　1930 年（女）
調査者名　岡山　卓矢　　被調査者属性　釜谷住民
補助調査者　土佐美菜実

日待ちとオヨウカについて

日待ちのうち自宅からお膳を持参するのは、1 月のオヨウカ前夜の日待ち、2 月のオヨウカ当日朝の日待ちである。1 月のオヨウカで、持参のお膳のほかに出されるのは、停前の妻たちによるお茶くらいである。日待ちの後は、釜谷の下側、寺から巡行が始まる。2 月のオヨウカは、娘の時代にお膳持参から仕出しへ変わった。これらを飲み食いした後に春祈祷が出発する。このため仕出しの空箱も持ち歩き、途中自宅近くへ行列が来た際に置いていく。午の当たり年は一緒に初午行事もしたが、元は初午と春祈祷は別日程の行事だった。これらは釜谷の上側から始まり、知り合いの家によって酒を飲みながら進む行事である。

1、2 月のオヨウカいずれも、4 人担ぎの太鼓を人が叩き、笛が 3、4 人ながら行列をする。笛は吹けるならば子供でも誰でもよく、以前大川小学校に良い先生がいて授業で地域の文化を勉強するのに笛を始めたので、以降は笛に子供が参加するようになった。太鼓とシシは 10 軒ほど周ると交代するが、この交代役はじめ初穂料を集める役のオハツなど、役は全て寺で幹部達が決めておいたものである。

オヨウカの日待ちは精進料理を出すが、これは肉魚が入らなければどんな種類の料理を持参してもよい。またいずれも獅子が家々を回る行事だが、そこで出す料理も精進料理である。出汁には魚のものを使っているがそこまで気にしない。おひたしや酒などを出すが、若い人は日本酒をあまり飲まないで行く人も多くなった。

契約講について

午前中は神風講でその年の行事の相談や役員交代などを、午後は 3 講に分かれる。釜谷神風講は、昔から居る人達の契約講と、ベッカなど新しい家々の契約講がまとまって出来たものと聞いている。契約講は必ず入るべきものでなく、入りたくなければ入らなくともよい。ただ入れば葬式でジドリ（地取り）・シラセや、親類の葬列読み上げなど手伝いもしてもらえるので、居つくなら入った方がいいよと勧める。シラセは雄勝や北上など離れた所に住む葬式招待者へ訃報を 2 人組みで知らせにいくことである。昔はちゃんとした格好の 2 人組がくるとシラセと分かったものである。契約講に入っていない家の葬式はトナリや親類が手伝う。嫁に来て数年後、昭和 40 年頃には電話が繋がったのでシラセは無くなった。

葬式について

部落の人達は、釜谷で葬式があれば各戸 1 人は参列するものである。葬列の先頭は頭（カシラ）と呼ばれる木製の鬼のような顔の彫像、その後に竹竿にお経か何かが書かれた幟が 4～5 本並び、続いて喪主や位牌・遺影と、御飯や水などモチモノと呼ばれる供物を持つ人が並ぶ。15～6 年前まで、観音寺は観音さんのいるところだからと寺の中に葬式の人を入れなかった。元は今の共有墓地の辺りに引導場と呼ばれる小屋があり、中にアゲ輿（コシ）と呼ばれる神輿に似た、金と黒に塗られ屋根の上に金の鳥がついたものを入れてあった。土葬時代はこのアゲ輿に遺体を入れて死者の息子・兄弟・甥など親類男性 5～6 人で葬列と一緒に引導場まで運んだ。このため親類たちは葬式の朝 10 時くらいにアゲ輿を取りに行くものだったが、火葬になってからはアゲ輿は使わなくなった。引導場で観音寺の住職が来て拝み引導渡しをする。なにやら拝んだあと最後に「なんとかかんとか、引導を渡す！」とい

つも言う。また葬列ではアゲ輿にエンノツナ（縁の綱）と呼ばれるサラシ 2 本が結いつけられ、1 本は近親の女性、もう 1 本はその他親類や部落の参列者がこれを掴んで葬列に加わって歩いた。死んだ人を送っていくような意味合いがある。なお釜谷でも長面や雄勝の寺の檀家はアゲ輿を使わず、これらの住職が引導場前へ来て引導を渡す。引導渡しが終わると隣の共同墓地へ埋葬するのだが、その前は屋敷地の中や山にあった墓へ葬列が移動して埋葬した。

死装束と三角巾・エンノツナ・オユズリは親類や隣組の女の人達でこさえる。オユズリは羽織の背に南無阿弥陀仏と書いたものである。昭和 50 年の少し前から火葬になり、同 52 年に亡くなった姑がこの家で最初の火葬である。火葬場ははじめは石巻にしかなかったが、雄勝に出来てからはこちらが使われる。

写真 1　仮設住宅へ来た屋台